

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品・・・ 最終仕入原価法による原価法を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却方法

①有形固定資産

什器備品・・・ 定額法を採用しております。

②無形固定資産

ソフトウェア・・・ 定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

該当ありません。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
減価償却引当資産	31,050,349	1,490,637	5,430,881	27,110,105
合計	31,050,349	1,490,637	5,430,881	27,110,105

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
減価償却引当資産	27,110,105	—	(27,110,105)	—
合計	27,110,105	—	(27,110,105)	—

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	12,579,192	11,194,078	1,385,114
電話加入権	50,000	—	50,000
ソフトウェア	17,734,415	15,916,027	1,818,388
合計	30,363,607	27,110,105	3,253,502

5. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科目	債権金額	貸倒引当金の当 期末残高	債権の当期末残高
未収会費			
業務会費	1,250,115	—	1,250,115
小計	1,250,115	—	1,250,115
未収金	27,502,524	—	27,502,524
合計	28,752,639	—	28,752,639